



シンフォニア通信 第31号



東京都日野市東平山 3-1-19

社会福祉法人 大家族

特別養護老人ホームシンフォニア

～こあいさつ～

時代を考え、時代に生きる

街路樹ハナミズキの葉が、赤みを増して、身近な場所でも紅葉を楽しめる季節になりました。朝晩の寒さにそれぞれの施設で、暖房のスイッチが入れられるようになりました。それでも日中の気温の上昇や太陽の光が十分な時には、毎朝、利用者の皆さんに朝の挨拶に伺いながら、無駄なエネルギー（電力）使用にならない様に、スイッチを切ったり、また職員に指示することもあります。気候の変わり目には、利用者の皆さんも体調の変化に注意が必要です。

前回にも、書かせていただきましたが、自然災害の凄さを前に、人間の無力さと謙虚さが求められていることを痛感させられています。また経済も「生きもの」です。ここにきてまた日銀がお金を増刷して円安を進め、株高になっています。しかし円の価値がますます下がり、株高が進んでも、これで私たちの生活がよくなるとは、到底考えられない事態です。

不安定な社会経済状況に、どう知恵を絞り、お互いに支えあうことが必要な時代になったようです。

GDP や経済の右肩上がりがありえない時代、人口減、子どもや若い世代の減少、国内経済の縮小は、かつて経験したことがありません。この大きな変化に今までのままの生き方や生活の仕方では難しく、立ちいかなくなっていくようで心配です。

「衣食住」が生活の基本ですが、衣料は溢れていて、食糧のように、「食べて終わり」というように無くなりはしませんので、リサイクルも考えれば、先行きはほぼ安泰です。また空き家問題がさらに進行すると考えられる、「住宅」事情もほぼ同様です。

やはり一番深刻なのが、食糧です。地球の異常気象、新興国の人口増から 70 億に迫る世界人口を考えると、食糧を他国にゆだねる危険性はますます高まっています。それゆえ日本農業のあり方が、これからの日本の、そして私たちの生き方や生活を左右する、重要な鍵と考えられます。そして少なくなっていく「人の手」を必要とする介護も同様です。いろんな試みから、これからの介護を考えながら、仕事をしたいものです。

社会福祉法人 大家族

理事長 佐々木榮一

～イベント紹介～



26.10.31

ひよこハウス交流 ハロウィン



ひよこハウス豊田・多摩平の園児達との交流がありました。
ハロウィンの仮装で歌や踊りを披露してくれました。
交流では元気いっぱいの園児達の姿に利用者様の笑顔が沢山見られました。



マジックショー

(誕生日会に行われています)



10月は紅芋タルトでした。



お誕生日会ではボランティアの塚田ちとみさんが毎回色々なマジックを披露しています。様々なものを使用して利用者の皆様が楽しんで頂ける内容になっています。